



## 第4回

## 西海市で発見された恐竜化石

## 化石調査の取り組み

西海市教育委員会では、化石や地質鉱物資源を調査研究し、本市の持つ新たな魅力を解明する「さいかい解明新書事業」に取り組んでいます。平成28年度は、西海市崎戸<sup>さきと</sup>歴史民俗資料館に展示されていた鯨とも海牛類ともいわれる正体不明の化石を調査するため、化石クリーニング室を新設しました。また、この化石の発見者による講演会を開催しました。今年度は7月28日に本事業の一環として、西海市大島町の海岸で発見された恐竜化石について、西海市と福井県立大学恐竜学研究所の共同で報道発表しました。

## 恐竜化石の特徴は？

恐竜化石は、高さ42ミリ、幅27ミリ、厚さ10ミリで5本の歯が密集して並んでいる「デンタルバッテリー構造」が確認でき、その形態からハドロサウルス上科の恐竜の右歯骨（下顎）の化石と考えられます。「デンタルバッテリー構造」とは、一部の植物食恐竜で見られる、機能歯と予備の歯が一連となった構造のことで、機能歯がすり減ると予備の歯に次々と入れ替わる仕組みになっていました。ハドロサウルスの仲間には「白亜紀の牛」とも表現され、白亜紀（1億4500万年～6600万年前）に北半球で広く生息した植物食恐竜です。

## 恐竜化石発見の意義

長崎県では、これまで長崎市で恐竜化石が発見されていません。今回の発見は、長崎県の新たな恐竜化石産地を明らかにしただけでなく、従来知られていなかった白亜紀後期の地層が西海市に存在していたことを証明するなど、日本の地質学・古生物学上においても学術

的意義をもつ発見となりました。

現在も崎戸歴史民俗資料館では化石の正体を明らかにすべく、クリーニング作業が進められています。西都市の皆さんも機会がありましたら、ぜひお越しください。



資料館でクリーニング中の化石



ハドロサウルス上科の恐竜の化石